平成 24 年度

岡豊城跡　伝家老屋敷曲輪

第 3 次調査

現地説明会資料

平成 25 年 3 月 9 日（土）午前 10 時～11 時 30 分

南国市教育委員会

１．調査に至る経緯

長宗我部氏の居城である岡豊城跡は、平成 20 年 7 月 28 日に国史跡の指定をうけました。その指定範囲は岡豊山上部の主郭部を中心としたエリアであり、指定範囲外についても将来の追加指定を目指して、岡豊城跡全域の縄張り調査や確認調査を実施しています。

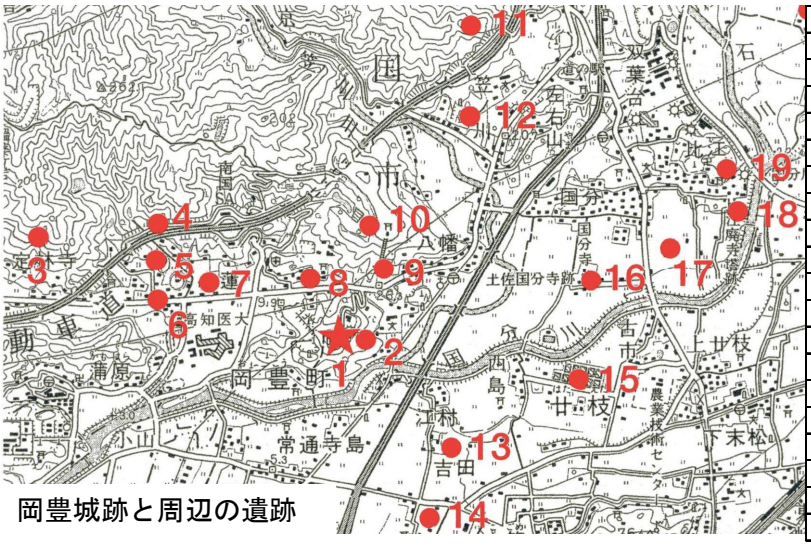
そこで長宗我部氏もしくは有力家臣の館の存在が想定され、主な登城ルートにあたる「伝家老屋敷曲輪」の内容を確認するための発掘調査を平成 22 年度から行っており、今回で３回目の調査となります。

２．発掘調査の概要

所在地　　南国市岡豊町八幡字豊岡山
調査目的　内容確認のための学術調査
調査面積　450 ㎡（伝家老屋敷曲輪全体は 1,650 ㎡）
調査期間　平成 25 年 1 月 16 日～3 月末

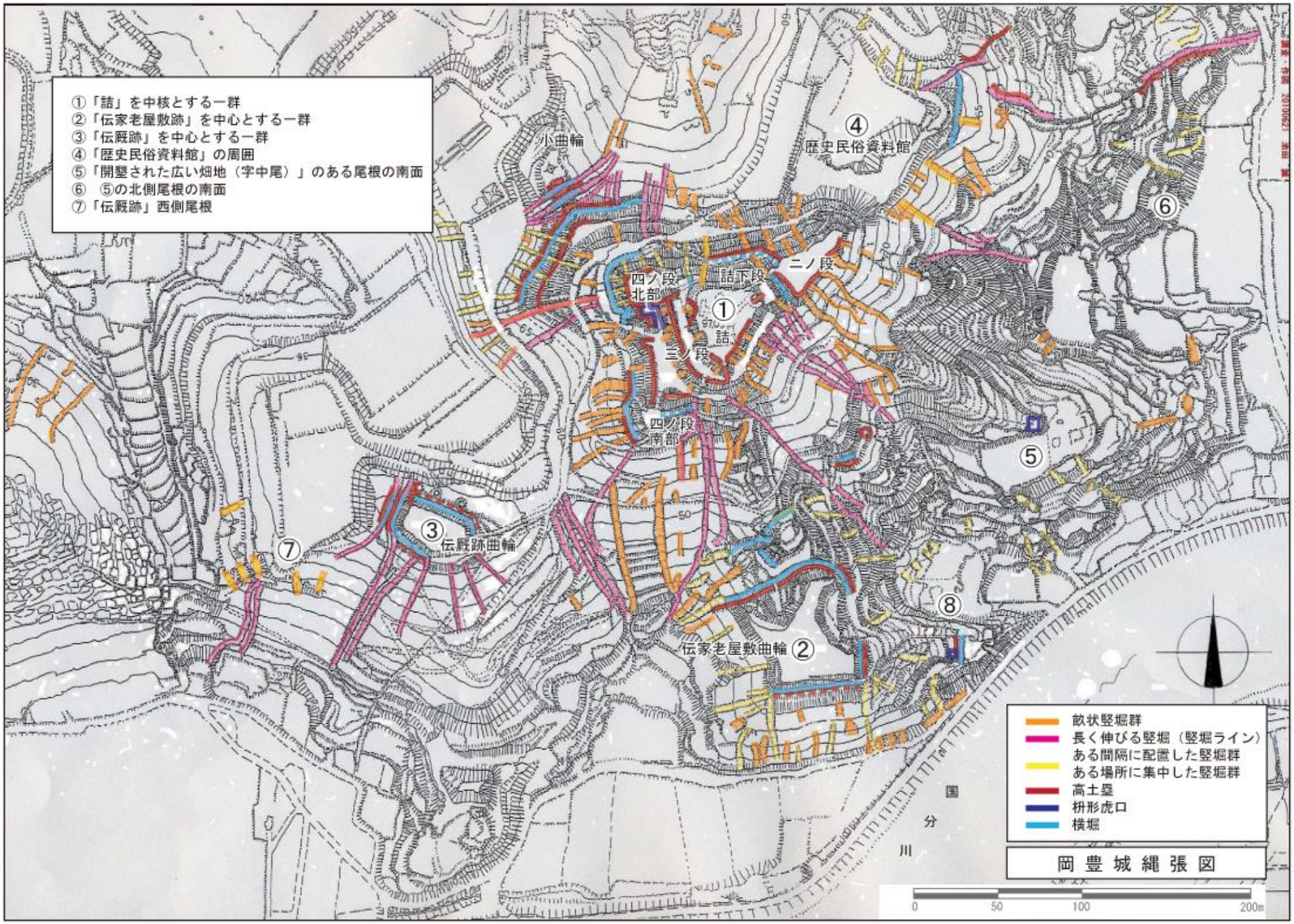
作業風景

柱穴掘削の様子



岡豊城跡と周辺の遺跡

No	遺跡名	時　代
1	岡豊城跡	中世
2	西谷遺跡	中世
3	長畝古墳群	古墳
4	奥谷北遺跡	縄文
5	奥谷南遺跡	旧石器～近世
6	栄エ田遺跡	縄文～近世
7	小蓮古墳	古墳
8	天神の前遺跡	縄文･古墳
9	狭間古墳	古墳
10	舟岩古墳群	古墳
11	新城城跡	中世
12	池ノ尻古城跡	中世
13	吉田土居城跡	中世
14	小籠土居城跡	中世
15	廣井土居城跡	中世
16	土佐国分寺跡	奈良･平安
17	土佐国衙跡	弥生～近世
18	比江廃寺跡	白鳳･奈良
19	比江山城跡	中世


①「詰」を中核とする一群
②「伝家老屋敷跡」を中心とする一群
③「伝殿跡」を中心とする一群
④「歴史民俗資料館」の周囲
⑤「開墾された広い畑地（字中尾）」のある尾根の南面
⑥ ⑤の北側尾根の南面
⑦「伝殿跡」西側尾根
小曲輪
④
歴史民俗資料館
⑥
二ノ段
詰下段
四ノ段
北部
①
詰
三ノ段
四ノ段
南部
⑤
③
伝殿跡曲輪
⑦
⑧
伝家老屋敷曲輪 ②
国
分
川
畝状竪堀群
長く伸びる竪堀（竪堀ライン）
ある間隔に配置した竪堀群
ある場所に集中した竪堀群
高土塁
枡形虎口
横堀
岡豊城縄張図
0
50
100
200m

３．調査の成果と課題

◎虎口（曲輪入口）の調査

通路や門状の遺構を確認

第１次調査では、虎口に直交して幅 1.2 m程の溝状に窪んだ遺構が確認されており、用途不明とされていました。今回、その周囲を拡張したところ、溝状遺構の両側に計６基の柱穴が並んでいることが分かりました。

おそらく、門のようなものがあり、その間の通路部分が人の往来のために若干窪んだものと考えられます。

◎東張出部の調査

やぐらの可能性のある掘立柱建物跡を確認

曲輪東側には、曲輪に入る通路に並行して方形の張出部が作られています。

張出部の形状に合わせて、南北 6.8m、東西 7m、３間×３間以上の建物の柱穴が確認できました。

曲輪へ敵が侵入するのを発見するために最適の場所でもあるため、見張り台のような建物が建っていたことが考えられます。

◎切岸周辺の調査

地鎮とみられる遺物が出土

西側の調査区では、土師質土器の皿の中に宋銭が入った状態で見つかりました。詰でも同じような遺構が確認されており、地鎮のための祭祀を行ったと考えられています。この曲輪でも建物の西側で見つかっており、詰との共通性が見られます。

掘立柱建物跡を２棟確認

曲輪の北端では柱穴が密集して検出されています。柱穴が密集する範囲は東西22m、南北14m以上に広がっています。大きさなどから、この曲輪での主要な建物の柱穴と考えられ、何度も建て替えられていたようです。

特に、切岸直下の場所には３間×３間の総柱建物が想定されます。これらの柱穴は他のものより深く、硬い岩盤の場所を選んで掘られていることから堅固な建物が建てられていたと考えられます。この総柱建物は、詰の礎石建物と同じように東西南北の方位に沿うように建てられています。

また、この建物の東側でも方位に合わせて柱穴が並んでおり、付属する建物と考えられます。

盛土による曲輪の成形

曲輪の縁辺部は、岩盤を削った土砂を盛って成形し、広大な平坦面を作り出しています。

もともとの山の地形と盛土との境には黒色土の堆積が確認できました。

盛土の断面を観察すると、質の違う土を何層も重ねており、一番外側の層には岩盤を砕いた土を盛ることで崩れにくくしている工夫がされています。

多数の遺物が出土

今回の調査ではコンテナ 30 箱以上もの遺物が出土しました。土師質土器が大半を占めています。形を復元できるものが少なく、儀式に使用するために意図的に壊して廃棄した可能性があります。中国製の磁器や岡山県の備前焼、愛知県の瀬戸焼など各地の陶磁器も出土しており、交易によって手に入れていたようです。

また、出土した陶磁器の時期はほとんどが 16 世紀後半のもので、長宗我部元親が活躍した時代にあたります。

他にも、鉄滓や砥石のかけら、漁労具である土錘等も出土しており、城での生活の様子が想像できます。

青磁盤

土師質土器

４．まとめ

今回の調査は、切岸周辺・虎口・東張出部の３ヶ所に焦点をあてて行いました。その結果、計画的かつ防御性に優れた建物配置など、伝家老屋敷曲輪の使われ方についてある程度明らかにすることができました。

今後、これらの成果を検討し、伝家老屋敷曲輪の性格を位置づけるとともに、岡豊城跡全体の調査を進めていく予定です。

５．おわりに

今回の調査にあたり、地権者の方をはじめ、多くの方々にご支援・ご協力を賜りましたことを厚く御礼申し上げます。

今後とも文化財調査へのご理解・ご協力をお願いいたします。

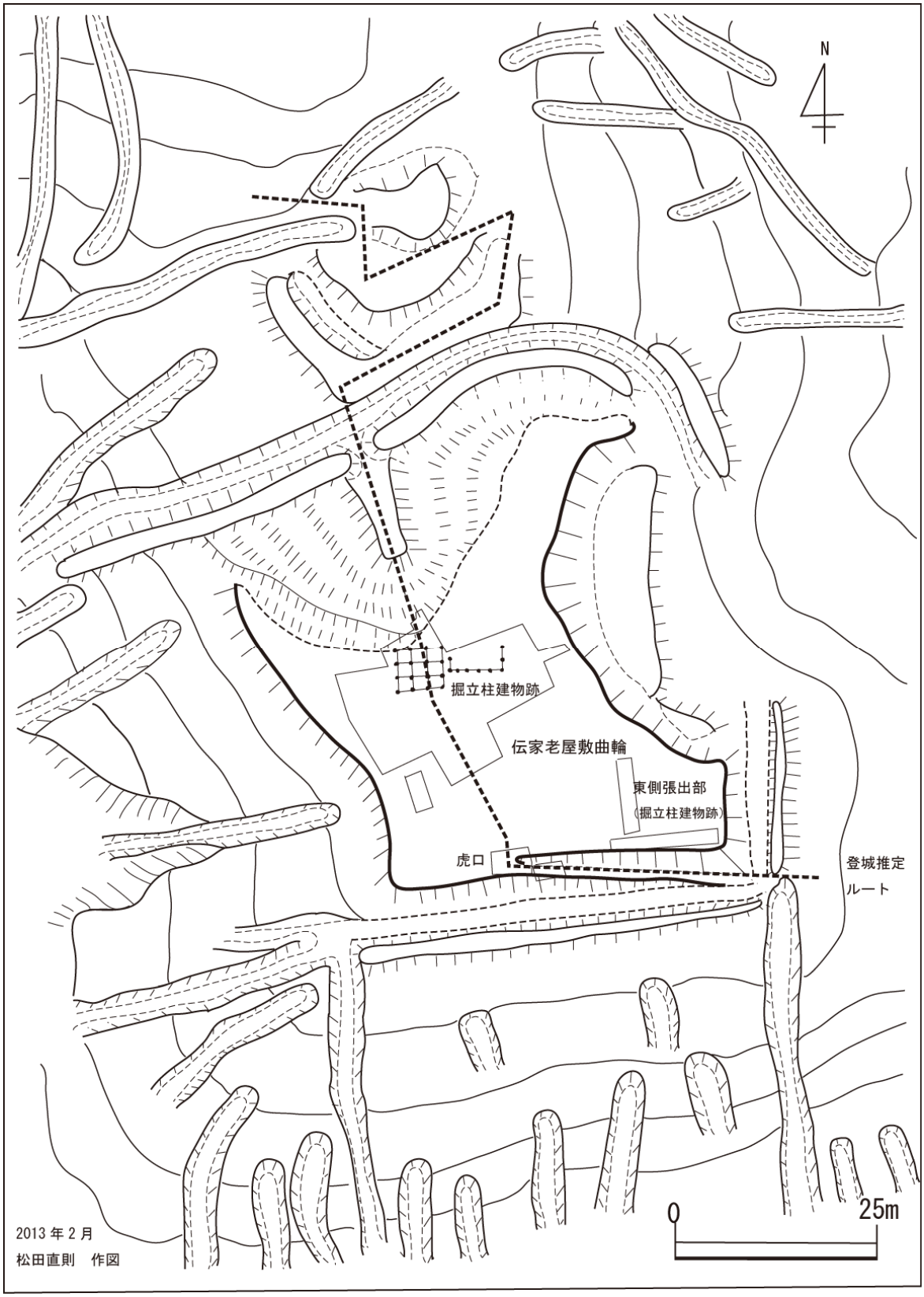
用語解説

曲輪：山城の中で、平坦に加工した場所

虎口：曲輪へ侵入する敵を阻むために作られた入口

切岸：尾根を人工的に崖状に切って登りにくくした場所

鉄滓：鍛冶の際に出た不純物の多い鉄の塊



伝家老屋敷曲輪とその周辺の推定登城ルート